

2005

H17

第 13 回 あま指国家試験

(あま指 13) 医療概論

1~2

あ 13-1 最近の我が国の国民医療費で正しいのはどれか。

1. 約 30 億円
2. 約 300 億円
3. 約 3 兆円
4. 約 30 兆円

あ 13-2 プライマリ - ケアの定義で正しいのはどれか。

1. 初期医療
2. 小児医療
3. 緩和医療
4. 終末期医療

(あま指 13) 衛生学公衆衛生学

3~11

あ 13-3 ヘルスプロモ - ションの概念を定めたのはどれか。

1. WHO 憲章
2. オタワ憲章
3. アルマ・アタ宣言
4. ジュネ - プ宣言

あ 13-4 過剰摂取と疾病との組み合わせで誤っているのはどれか。

1. 塩分 高血圧
2. 糖質 糖尿病
3. 脂肪 心筋梗塞
4. 蛋白質 腎臓病

あ 13-5 水俣病の原因物質はどれか。

1. ヒ素
2. メチル水銀
3. カドミウム
4. PCB

あ 13-6 上水道の消毒に使われるのはどれか。

1. 塩素
2. 臭素
3. トリハロメタン
4. フッ素

あ 13-7 疾病の原因で物理的要因でないのはどれか。

1. 騒音
2. 放射線
3. 発がん物質
4. 振動

あ 13-8 疾病とその病原体との組み合わせで誤っているのはどれか。

1. 肝炎 ウイルス
2. 結核 細菌
3. 風疹 ウイルス
4. マラリア 細菌

(あマ指 13) 衛生学公衆衛生学

3～11

あ 13-9 魚介類による食中毒の病原体として適切なのはどれか。

1. ブドウ球菌
2. 腸炎ビブリオ
3. サルモネラ菌
4. ボツリヌス菌

あ 13-10 我が国で年齢調整死亡率が減少傾向にあるのはどれか。

1. 肺癌
2. 乳癌
3. 胃癌
4. 大腸癌

あ 13-11 統計調査から得られる指標の組み合わせで誤っているのはどれか。

1. 患者調査 受療率
2. 国民生活基礎調査 有訴者率
3. 人口静態調査 死亡率
4. 感染症発生動向調査 - 罹患率

(あマ指 13) 関係法規

12～15

あ 13-12 あん摩マッサ - ジ指圧師、はり師きゅう師等に関する法律で広告をしてはならないのはどれか。

1. 施術者の住所
2. 施術所の名称
3. 施術方法
4. 施術時間

あ 13-13 あん摩マッサ - ジ指圧師はり師きゅう師等に関する法律で施術所開設の届け出で正しいのはどれか。

1. 開設後 5 日以内
2. 開設後 7 日以内
3. 開設後 10 日以内
4. 開設後 30 日以内

あ 13-14 救急医療施設を有しなければならないのはどれか。

1. 病院
2. 有床診療所
3. 地域医療支援病院
4. 助産所

あ 13-15 介護保険サ - ビスを利用した場合、自己負担の割合はどれか。

1. 5%
2. 10%
3. 20%
4. 30%

(あマ指 13) 解剖学

16～38

あ 13-16 食道について誤っている記述はどれか。

1. 粘膜上皮は重層扁平上皮である。
2. 筋層に横紋筋線維が多い。
3. 上部は気管の後方に位置する。
4. 横隔膜の腱中心を貫く。

あ 13-17 人体の基準面のうち 1 面しかないのはどれか。

1. 正中面
2. 矢状面
3. 水平面
4. 前頭面

あ 13-18 肩関節の回旋筋腱板の形成に関与しないのはどれか。

1. 棘上筋
2. 棘下筋
3. 大円筋
4. 肩甲下筋

あ 13-19 三叉神経支配の筋はどれか。

1. 咬筋
2. 胸骨舌骨筋
3. 顎舌骨筋
4. 眼輪筋

あ 13-20 脊柱起立筋を構成する筋はどれか。

1. 僧帽筋
2. 広背筋
3. 板状筋
4. 棘筋

あ 13-21 上腕骨の内側上顆に起始しない筋はどれか。

1. 円回内筋
2. 腕橈骨筋
3. 尺側手根屈筋
4. 長掌筋

あ 13-22 大腿骨の大転子に停止しない筋はどれか。

1. 大殿筋
2. 梨状筋
3. 小殿筋
4. 中殿筋

あ 13-23 総腓骨神経の枝に支配されている筋はどれか。

1. 半腱様筋
2. 半膜様筋
3. 前脛骨筋
4. 後脛骨筋

あ 13-24 消化管について誤っている記述はどれか。

1. 胃は噴門で十二指腸とつながる。
2. 小腸には腸絨毛がある。
3. 虫垂は盲腸に付着する。
4. 横行結腸は腸間膜をもつ。

あ 13-25 中鼻道に開口しないのはどれか。

1. 前頭洞
2. 蝶形骨洞
3. 上顎洞
4. 前篩骨洞

あ 13-26 尿管について誤っている記述はどれか。

1. 壁は粘膜、筋層、外膜よりなる。
2. 粘膜は移行上皮で覆われる。
3. 筋層には蠕動運動がみられる。
4. 2か所に狭窄部をもつ。

あ 13-27 精巣について誤っている記述はどれか。

1. 陰嚢の中にある。
2. 精細管で精子が産生される。
3. 間質にセルトリ細胞が存在する。
4. 間細胞は男性ホルモンを分泌する。

あ 13-28 卵巣について誤っている記述はどれか。

1. 腹膜に包まれている。
2. 中空性臓器である。
3. 卵胞が存在する。
4. 女性ホルモンを分泌する。

あ 13-29 副腎について誤っている記述はどれか。

1. 左右一対ある。
2. 腎臓の下に位置する。
3. 髄質はアドレナリンを分泌する。
4. 皮質はステロイドホルモンを分泌する。

あ 13-30 右心房に開口しないのはどれか。

1. 上大静脈
2. 下大静脈
3. 肺静脈
4. 冠状静脈洞

あ 13-31 大動脈弓の直接分枝でないのはどれか。

1. 腕頭動脈
2. 左鎖骨下動脈
3. 左総頸動脈
4. 右総頸動脈

あ 13-32 門脈の構成に関与しないのはどれか。

1. 腎静脈
2. 脾静脈
3. 上腸間膜静脈
4. 下腸間膜静脈

あ 13-33 健常成人の脾臓について誤っている記述はどれか。

1. 腹腔の左上部にある。
2. 表面は腹膜に包まれている。
3. 赤脾髄で赤血球が産生される。
4. 白脾髄でリンパ球が産生される。

あ 13-34 赤核がみられるのはどれか。

1. 大脳
2. 中脳
3. 間脳
4. 延髄

あ 13-35 顔面神経の機能でないのはどれか。

1. 表情筋の運動
2. 舌の前 2/3 の味覚
3. 涙腺の分泌
4. 顔面の感覚

あ 13-36 正中神経支配の筋はどれか。

1. 円回内筋
2. 回外筋
3. 上腕筋
4. 肘筋

あ 13-37 眼房水が吸収される部位はどれか。

1. 虹彩
2. 毛様体
3. 黄斑
4. 強膜静脈洞

あ 13-38 耳管によって咽頭とつながるのはどれか。

1. 前庭
2. 鼓室
3. 蝸牛
4. 半規管

あ 13-39 細胞小器官とその働きとの組み合わせで誤っているのはどれか。

- | | |
|------------|-----------|
| 1. ミトコンドリア | A T P の合成 |
| 2. リソソーム | 不要物質の分解 |
| 3. 中心体 | 細胞分裂 |
| 4. ゴルジ装置 | 蛋白質の合成 |

あ 13-40.心電図から検出できないのはどれか。

1. 心筋の虚血
2. 興奮伝導障害
3. 弁の開閉異常
4. 期外収縮

あ 13-41 安静時の循環血液量が最も多いのはどれか。

1. 脳
2. 肝臓
3. 骨格筋
4. 心臓

あ 13-42 呼吸運動を促進しないのはどれか。

1. 肺の伸展受容器の興奮
2. 動脈の化学受容器の興奮
3. 血液の pH 値の低下
4. 血液酸素分圧の低下

あ 13-43 肝臓の働きでないのはどれか。

1. 血液凝固因子の産生
2. 解毒作用
3. 血液の貯蔵
4. ホルモンの分泌

あ 13-44 胃酸の作用に含まれないのはどれか。

1. ペプシノ - ゲンをペプシンにする。
2. 胃内の細菌を殺菌する。
3. セクレチンの分泌を促進する。
4. ムチンの分泌を抑制する。

あ 13-45 A T P 生成の材料にならないのはどれか。

1. 脂肪酸
2. ビタミン E
3. ピルビン酸
4. グルコ - ス

あ 13-46 寒さへの適応で最も遅く起きる反応はどれか。

1. 皮膚血管の収縮
2. 立毛筋の収縮
3. ふるえ産熱
4. 代謝の亢進

あ 13-47 健常成人の腎糸球体でろ過される物質はどれか。

1. アルブミン
2. 赤血球
3. ブドウ糖
4. - グロブリン

あ 13-48 血糖を増加させないのはどれか。

1. コルチゾ - ル
2. アドレナリン
3. サイロキシン
4. パラソルモン

あ 13-49 妊娠の維持に重要なホルモンはどれか。

1. エストロゲン
2. プロゲステロン
3. オキシトシン
4. コルチコステロン

あ 13-50 神経線維における興奮伝導で誤っている記述はどれか。

1. 興奮は両方向に伝わる。
2. 有髄線維は無髄線維よりも伝導速度が速い。
3. 伝導速度は温度の影響を受ける。
4. 興奮は隣接する神経線維に伝わる。

あ 13-51 自律神経の二重神経支配を受けないのはどれか。

1. 瞳孔散大筋
2. 唾液腺
3. 胃
4. 膀胱

あ 13-52 筋性防御の原因となるのはどれか。

1. 下肢の熱傷
2. 骨格筋の損傷
3. 腹膜の炎症
4. 肋骨の骨折

あ 13-53 赤筋線維について正しい記述はどれか。

1. 白筋線維よりも疲労しにくい。
2. 白筋線維よりも発生する張力が大きい。
3. 白筋線維よりも収縮が速い。
4. 白筋線維よりも酸素消費量が少ない。

あ 13-54 脊髄反射はどれか。

1. 緊張性頸反射
2. 交叉性伸展反射
3. 緊張性迷路反射
4. 立ち直り反射

あ 13-55 等尺性収縮を主とする運動はどれか。

1. 壁を押し続ける。
2. ドアノブを回す。
3. シャッタ - を上げる。
4. 扉を開く。

あ 13-56 足先を強くぶつけた時に痛みを 2 度感じた。2 番目の痛みで誤っているのはどれか。

1. ポリモ - ダル受容器が興奮した。
2. C 線維が興奮を伝導した。
3. 鋭い痛みであった。
4. ゆっくりと消失した。

あ 13-57 抗体について誤っているのはどれか。

1. T 細胞が産生する。
2. - グロブリンに属する。
3. 抗原特異性が高い。
4. 再感染で産生量が増加する。

あ 13-58 病因のうち外因に属するのはどれか。

1. 素因
2. 遺伝
3. 感染
4. 免疫

あ 13-59 催奇形因子として最も関連の低いのはどれか。

1. 風 疹
2. 糖尿病
3. ダイオキシン
4. ビタミン C

あ 13-60 加齢に伴う変化で誤っているのはどれか。

1. 臓器の実質細胞数の減少
2. 間質組織の硬化
3. 軟骨・骨組織の再生
4. 消耗色素の蓄積

あ 13-61 肺からの出血に最も関連のある症状はどれか。

1. 吐血
2. 喀血
3. 下血
4. 血尿

あ 13-62 浮腫の成因として最も関連の低いのはどれか。

1. 血小板減少症
2. 低アルブミン血症
3. うっ血性心不全
4. ネフロ - ゼ症候群

あ 13-63 肉芽組織の構成成分でないのはどれか。

1. 上皮細胞
2. 貪食細胞
3. 血管内皮細胞
4. 線維芽細胞

あ 13-64 我が国のがん統計について誤っている記述はどれか。

1. 男性がん死亡率は肺癌が最も高い。
2. 女性がん死亡率は子宮癌が最も高い。
3. 前立腺癌罹患率は増加傾向にある。
4. 乳癌罹患率は増加傾向にある。

あ 13-65 巨大舌がみられるのはどれか。

1. 甲状腺機能亢進症
2. ベ - チェット病
3. アミロイド - シス
4. 猩紅熱

あ 13-66 病的骨折の原因となるのはどれか。

1. クレチン病
2. クッシング病
3. アジソン病
4. バセドウ病

あ 13-67 高血糖がみられるのはどれか。

1. 尿崩症
2. 粘液水腫
3. アジソン病
4. 褐色細胞腫

あ 13-68 歩行異常について正しい組み合わせはどれか。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 随意跛行 | 先天性股関節脱臼 |
| 2. 間欠跛行 | 小児股関節結核 |
| 3. はさみ足歩行 | 脳性小児麻痺 |
| 4. 墜落跛行 | 片麻痺 |

あ 13-69 捻挫局所の初期治療で適切でないのはどれか。

1. 拳 上
2. 固 定
3. 冷 却
4. マッサ - ジ

あ 13-70 浮腫がみられないのはどれか。

1. 急性腎炎
2. 肝硬変
3. 甲状腺機能低下症
4. 副甲状腺機能低下症

あ 13-71 血圧測定で誤っている記述はどれか。

1. 坐位で測定する。
2. 圧迫帯の中心が心臓の高さで測定する。
3. 圧迫帯の減圧は 1 心拍に約 6mmHg とする。
4. 収縮期血圧はスワン第 1 点で判定する。

あ 13-72 バイタルサインに含まれないのはどれか。

1. 尿量
2. 呼吸
3. 体温
4. 脈拍

あ 13-73 呼吸異常と疾患との組み合わせで正しいのはどれか。

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. チェ - ン・スト - クス呼吸 | 糖尿病性アシド - シス |
| 2. 起座呼吸 | うっ血性心不全 |
| 3. クスマウル大呼吸 | 気管支喘息 |
| 4. 下顎呼吸 | 過換気症候群 |

あ 13-74 ネブライザ - 療法の適応疾患はどれか。

1. 気管支喘息
2. 自然気胸
3. 肺結核
4. 肺線維症

あ 13-75 細菌が原因の感染症はどれか。

1. ジフテリア
2. エイズ
3. 麻 疹
4. 流行性耳下腺炎

あ 13-76 運動機能障害について誤っている組合せはどれか。

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 錐体路障害 | 病的反射 |
| 2. 錐体外路障害 | 不随意運動 |
| 3. 下位運動ニューロン障害 | 筋萎縮 |
| 4. 神経筋接合部障害 | 深部腱反射亢進 |

あ 13-77 2型糖尿病について正しい記述はどれか。

1. 原因にはウイルス感染がある。
2. 膵臓の細胞に対する自己抗体がみられる。
3. 家族に糖尿病を有する率が高い。
4. やせ型の若年者に多い。

あ 13-78 ブドウ膜炎がみられないのはどれか。

1. 多発性硬化症
2. サルコイド - シス
3. 梅毒
4. ベ - チェット病

あ 13-79 肺結核について誤っている記述はどれか。

1. 空気感染する。
2. 初回感染での発病率が高い。
3. 確定診断には喀痰培養を用いる。
4. 多剤耐性菌感染は難治性である。

あ 13-80 五十肩について誤っている記述はどれか。

1. 外旋運動が制限される。
2. 保存的治療が基本である。
3. 上肢帯筋の萎縮が起こる。
4. 完治することはまれである。

あ 13-81 変形性股関節症について正しい記述はどれか。

1. 我が国では二次性が多い。
2. エックス線像で骨萎縮が強い。
3. ジョギングを勧める。
4. 杖は患側に持たせる。

あ 13-82 腰部脊柱管狭窄症について適切でない記述はどれか。

1. 高齢者に多い。
2. 間欠跛行が特徴である。
3. 下肢症状は両側に認めることが多い。
4. 足背動脈の拍動は消失する。

あ 13-83 血圧が高くなる原因として誤っているのはどれか。

1. 動脈硬化
2. 大動脈性伸展性増加
3. 血液量増加
4. 血液粘性増加

あ 13-84 脈拍異常とその原因との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 呼吸性不整脈 | 洞性不整脈 |
| 2. 絶対性不整脈 | 心房細動 |
| 3. 脈拍欠損 | 期外収縮 |
| 4. 奇脈 | 房室ブロック |

あ 13-85 貧血について誤っている組合せはどれか。

1. 鉄欠乏性貧血 血清フェリチン増加
2. 巨赤芽球性貧血 ビタミンB12 欠乏
3. 溶血性貧血 脾 腫
4. 再生不良性貧血 汎血球減少

あ 13-86 心筋梗塞について誤っている記述はどれか。

1. 胸痛は左肩へ放散する。
2. 胸痛はニトログリセリンの舌下投与によって消失する。
3. 胸痛は 30 分以上持続する。
4. 心電図でST上昇がみられる。

あ 13-87 肝硬変でみられるのはどれか。

1. 血小板増加
2. プロトロンビン時間短縮
3. 血中アルブミン低下
4. コリンエステラ - ゼ上昇

あ 13-88 神経ブロックに用いるのはどれか。

1. モルヒネ
2. リドカイン
3. ベンゾジアゼピン
4. バルビツレ - ト

あ 13-89 出血性ショックでみられないのはどれか。

1. 脈拍微弱
2. 皮膚温上昇
3. 血圧低下
4. 呼吸促拍

あ 13-90 疝痛をきたすのはどれか。

1. 肺梗塞
2. 心筋梗塞
3. 尿管結石
4. 膀胱炎

あ 13-91 末期慢性腎不全の管理で適切でないのはどれか。

1. 食塩制限
2. 水分制限
3. 低蛋白食
4. 高カリウム食

あ 13-92 インフルエンザについて誤っているのはどれか。

1. 冬に流行しやすい。
2. 呼吸器感染症である。
3. 予防にワクチンが用いられる。
4. 高齢者は脳炎を起こしやすい。

あ 13-93 原発性自然気胸について正しい記述はどれか。

1. 患側の呼吸音が減弱する。
2. 徐々に胸痛が発現する。
3. 若い女性に多い。
4. 再発はまれである。

あ 13-94 発作後に後遺症を残さないのはどれか。

1. 脳塞栓
2. 脳血栓
3. 小脳出血
4. 一過性脳虚血発作

あ 13-95 原発性骨粗鬆症について誤っているのはどれか。

1. 閉経後に多く発症する。
2. 病的骨折を起こしやすい。
3. 運動が予防に重要である。
4. 血液、生化学検査に異常を認める。

あ 13-96 突発性難聴について誤っているのはどれか。

1. 感音性難聴である。
2. めまい発作を繰り返す。
3. 耳鳴りを伴う。
4. 原因は不明である。

あ 13-97 ノーマライゼーションの考え方として正しいのはどれか。

1. 障害のある者とない者が地域で共に暮らす。
2. 理学療法によって身体障害を取り除く。
3. 障害者同士の心の交流を図る会を作る。
4. 障害者の健康増進を目指す。

あ 13-98 障害分類における機能障害はどれか。

1. 歩けない。
2. 嚥下ができない。
3. 着替えができない。
4. トイレ動作ができない。

あ 13-99 運動療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 筋力の増大
2. 関節拘縮の改善
3. 断裂した靭帯の修復
4. 持久力の改善

あ 13-100 温熱効果が期待できないのはどれか。

1. 赤外線療法
2. 超音波療法
3. 低周波療法
4. 極超短波療法

あ 13-101 前腕が回外位となる動作はどれか。

1. ピアノを弾く。
2. 瓶のふたを開ける。
3. 床に雑巾がけをする。
4. 両手で水をすくう。

あ 13-102 鶏歩がみられるのはどれか。

1. パ - キンソン病
2. 筋ジストロフィ - 症
3. 膝前十字靭帯損傷
4. 総腓骨神経麻痺

あ 13-103 脳梗塞急性期の患者で運動を開始してはならないのはどれか。

1. 収縮期血圧が 150mmHg
2. 脈拍が毎分 150 回
3. 呼吸数が毎分 12 回
4. 体温が 35.2

あ 13-104 生後 4 か月児で発達異常が疑われるのはどれか。

1. 首がすわらない。
2. 寝返りを打たない。
3. ガラガラを握らない。
4. 母親を呼ばない。

あ 13-105 変形性膝関節症患者に勧めるものとして誤っているのはどれか。

1. 柔軟体操
2. プ - ル内歩行
3. 登山
4. 適正体重の維持

あ 13-106 腰痛の運動療法で正しいのはどれか。

1. 治療よりも予防が主な目的である。
2. 速いスピードで体幹を動かす。
3. 体幹の回旋運動は伴わない。
4. 腰椎前弯が増強する姿勢を指導する。

あ 13-107 陽に属するのはどれか。

1. 腑
2. 胸腹部
3. 血
4. 慢性

あ 13-108.胆について誤っているのはどれか。

1. 奇恒の腑である。
2. 第 10 胸椎に付着する。
3. 決断を主る。
4. 君主の官である。

あ 13-109 五主と五色との組合せで正しいのはどれか。

1. 骨 黄
2. 筋 青
3. 肌肉 白
4. 皮毛 黒

あ 13-110 五臓と七情との組合せで正しいのはどれか。

1. 肝 恐
2. 脾 思
3. 肺 怒
4. 腎 喜

あ 13-111 食欲減退、下痢、月経過多を示す病証はどれか。

1. 肝
2. 心
3. 脾
4. 肺

あ 13-112 心の臓の作用で正しいのはどれか。

1. 運化を主る。
2. 皮毛を主る。
3. 神を蔵す。
4. 血を蔵す。

あ 13-113 津液について正しいのはどれか。

1. 臓腑を栄養する。
2. 汗や尿となって体外に排泄される。
3. 精神活動の基本物質である。
4. 生命活動の原動力となる。

あ 13-114 八綱病証について正しい記述はどれか。

1. 陰陽は正邪の盛衰を示す。
2. 表裏は八綱を統括する。
3. 寒熱は疾病の性質を示す。
4. 虚実は病位の深淺を示す。

あ 13-115 瘀血の腹証はどれか。

1. 心下痞硬
2. 胸脇苦満
3. 小腹急結
4. 小腹不仁

あ 13-116 次の文で示す経絡病証について適切なのはどれか。「歯痛鼻出血、のどの痛み、上肢外側の痛み。」

1. 胆 経
2. 肝 経
3. 肺 経
4. 大腸経

あ 13-117 経脈と所属経穴との組合せで正しいのはどれか。

1. 胃経 陰谷
2. 脾経 陰陵泉
3. 腎経 地機
4. 胆経 太衝

あ 13-118 手の薬指で接続する経脈の組合せで正しいのはどれか。

1. 大腸経 胃経
2. 心 経 小腸経
3. 心包経 三焦経
4. 胆 経 肝経

あ 13-119 同じ高さがない経穴の組合せはどれか。

1. 中腕 不容
2. 天枢 大横
3. 身柱 肺俞
4. 命門 志室

あ 13-120 陰経に所属する経穴はどれか。

1. 肩井
2. 曲池
3. 梁丘
4. 公孫

あ 13-121 内眼角から発して、頭部を循り、体幹の後面を下り、足の小指に至る経脈はどれか。

1. 肝 経
2. 胃 経
3. 腎 経
4. 膀胱経

あ 13-122 第 4 腰椎棘突起の下の外方 1 寸 5 分にある経穴はどれか。

1. 腎俞
2. 大腸俞
3. 小腸俞
4. 膀胱俞

あ 13-123 経脈と原穴との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肺経 太淵
2. 心経 神門
3. 脾経 太白
4. 肝経 太谿

あ 13-124 腹部正中から外方 2 寸に取穴する経穴はどれか。

1. 梁門
2. 日月
3. 育俞
4. 石門

あ 13-125 病態と治療法との組合せで適切でないのはどれか。

1. 神経痛 持続圧迫法
2. 頸椎症 スラスト法
3. 神経麻痺 運動法
4. 循環障害 軽擦法

あ 13-126 片頭痛発作時の局所施術で適切でないのはどれか。

1. 後頸部のホットパック
2. 頸部の回旋運動法
3. 頭頂部の叩打法
4. 側頭部の圧迫法

あ 13-127 眼精疲労の施術として誤っているのはどれか。

1. ネ - ゲリ - の伸頭法
2. コッドマン体操
3. 僧帽筋・胸鎖乳突筋の揉捏法
4. 睛明・瞳子膠の圧迫法

あ 13-128 顎関節症の開口障害に対する治療で適切でないのはどれか。

1. 圧痛部への軽い圧迫
2. そしゃく筋への四指揉捏
3. 開口運動の練習
4. 側頭部への極超短波照射

あ 13-129 顔面麻痺に対し、罹患神経が頭蓋骨から出る部位への施術で適切な経穴はどれか。

1. 承泣
2. 翳風
3. 陽白
4. 睛明

あ 13-130 三叉神経第3枝痛に対し、指頭圧迫法を行う適切な部位はどれか。

1. 前頭切痕
2. 眼窩上切痕
3. 眼窩下孔
4. オトガイ孔

あ 13-131 肩こりの治療対象となる筋と治療部位との組合せで正しいのはどれか。

- | | |
|---------|--------|
| 1. 肩甲挙筋 | 肩甲骨上角 |
| 2. 僧帽筋 | 肩甲骨下角 |
| 3. 板状筋 | 肩甲骨内側縁 |
| 4. 菱形筋 | 肩甲骨外側縁 |

あ 13-132 末梢性神経麻痺の治療で、障害部位とその部位を流注する経絡との組合せで正しいのはどれか。

- | | |
|------------|-----|
| 1. 橈骨神経麻痺 | 心包経 |
| 2. 尺骨神経麻痺 | 肺経 |
| 3. 総腓骨神経麻痺 | 胆経 |
| 4. 脛骨神経麻痺 | 胃経 |

あ 13-133 変形性膝関節症に伴う筋萎縮の評価法で最も適切なのはどれか。

1. 大腿周径
2. 大腿二頭筋の筋力
3. 膝蓋骨の動き
4. 関節裂隙部の圧痛

あ 13-134 次の文で示す患者の病証に対し、施術対象となる経絡はどれか。

「55歳の男性。下肢の冷え、腰痛、下腹部に力がなく軟弱である。」

- | | |
|-------|-------|
| 1. 肝経 | 2. 胃経 |
| 3. 腎経 | 4. 胆経 |

あ 13-135 随伴症状を伴う月経痛で施術対象として適切でないのはどれか。

1. 腰痛を伴うもの
2. 頭痛を伴うもの
3. 黄色帯下を伴うもの
4. 嘔気を伴うもの

あ 13-136 随伴症状を伴う高血圧症で施術対象として適切でないのはどれか。

1. 悪心・嘔吐を伴うもの
2. 浮腫・夜間多尿を伴うもの
3. 頭重・不眠を伴うもの
4. 息切れ・胸痛を伴うもの

あ 13-137 スポ - ツ傷害と罹患局所の組合せで適切でないのはどれか。

- | | |
|-------------|--------|
| 1. シンスプリント | 後脛骨筋 |
| 2. 上腕骨外側上顆炎 | 橈側手根屈筋 |
| 3. 野球肩 | 回旋筋腱板 |
| 4. 足関節捻挫 | 前距腓靭帯 |

あ 13-138 高齢者の慢性腰痛に対する治療で適切でないのはどれか。

1. 腰部の冷罨法
2. ウィリアムス体操
3. 脊柱起立筋への揉捏法
4. 腹筋強化のための運動法

あ 13-139 「35歳の男性。1か月前に自動車事故で受傷した。頸部を後屈すると上肢の疼痛・しびれが強くなる。上腕二頭筋反射減弱。」最も考えられる障害神経根はどれか。

1. C3
2. C5
3. C7
4. T1

あ 13-140 「35歳の男性。1か月前に自動車事故で受傷した。頸部を後屈すると上肢の疼痛・しびれが強くなる。上腕二頭筋反射減弱。」頸部への治療で適切でないのはどれか。

1. 軽度前屈位での牽引
2. 側臥位での軽擦法
3. 頸椎矯正法
4. ホットパック

あ 13-141 二指揉捏法の対象となる筋はどれか。

1. 側頭筋
2. 胸鎖乳突筋
3. 中殿筋
4. 腹直筋

あ 13-142 施術部位と手技との組合せで適切でないのはどれか。

- | | |
|--------|--------|
| 1. 頭部 | 柳手 |
| 2. 顔面部 | 指顆軽擦法 |
| 3. 上肢 | 鋸切状揉捏法 |
| 4. 腹部 | 手掌振せん法 |

あ 13-143 古法あん摩、導引、柔道の活法の技術を含む手技はどれか。

1. リンパドレナ - ジ
2. 指 圧
3. 関節モビリゼ - ション
4. マッサ - ジ

あ 13-144 血液の環流を促すマッサ - ジの手技として最も効果的なのはどれか。

1. 軽擦法
2. 叩打法
3. 強擦法
4. 振せん法

あ 13-145 骨粗鬆症が疑われる患者に対する施術で、最も注意しなければならないのはどれか。

1. 殿部の母指揉捏法
2. 大腿部の把握揉捏法
3. 肩上部の合掌打法
4. 背部の手掌圧迫法

あ 13-146 胃部不快感に対するポアス点への押圧刺激で期待される作用はどれか。

1. 誘導作用
2. 消炎作用
3. 反射作用
4. 矯正作用

あ 13-147 押圧操作の三原則のうち心理面を表すのはどれか。

1. 漸増漸減
2. 持続
3. 集中
4. 垂直

あ 13-148 手指消毒に関する説明で誤っている記述はどれか。

1. 流水で洗浄を行う。
2. 逆性石けんを使用する。
3. 洗浄後は手指を乾燥させる。
4. 消毒薬はベ - スン法で用いる。

あ 13-149 触圧覚の伝導路として適切でないのはどれか。

1. A 線維
2. パチニ小体
3. 錐体外路
4. 視 床

あ 13-150 ホメオスタシスについて誤っている記述はどれか。

1. ポジティブ・フィ - ドバック調節系が主である。
2. 恒常性保持機能ともいわれる。
3. 自然治癒力に影響する。
4. 自律神経が関与する。